

令和7年度第1回愛荘町子ども・子育て会議 議事録

日時	令和7年8月7日（木） 10時00分～11時35分
場所	愛荘町役場本庁舎 3階 第4会議室
出席者	烏野委員 山口委員 加藤委員 大辻委員 豊満委員 今村委員 松田委員 西澤委員（代理 中村参事） 木村委員 辻野委員 森野委員 事務局：教育委員会 陌間次長 子ども支援課 増居課長、森野
欠席者	加藤委員 田邊委員 中西委員
協議事項	(1) 愛荘町子ども・子育て会議の役割について (2) 第2期子ども・子育て支援事業計画の評価について (3) こども計画について (4) 愛荘町の児童の状況について
資料	・会議次第 ・令和7年度愛荘町子ども・子育て会議委員名簿 ・愛荘町子ども子育て会議条例 【資料1】 ・愛荘町子ども・子育て会議について 【資料2】 ・第2期子ども・子育て支援事業計画評価シート 【資料3】 ・こども計画について 【資料4】 ・愛荘町の児童の状況 【資料5】
傍聴者	0名

〔10：00〕開会

<増居課長>

失礼いたします。皆様、こんにちは。

定刻になりましたのでただいまから令和7年度第1回愛荘町子ども・子育て会議の方を開催いたします。

本年度初めての会議となります。どうぞよろしくお願いいたします。

私は愛荘町子ども支援課課長の増居と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは初めに有村愛荘町長の方がご挨拶申し上げます。

<有村町長>

皆様こんにちは。今ほど進行の方からもお話ございましたけれども今日が第1回ということになります。

こどもということ。また、お子様を育てていらっしゃるご家庭、そして地域ということが輝いていくこと本当に大切であるという思いを強く持ち、また様々に委員の皆様には、ご意見またご指導ということを賜りながら、この会議がおすすめをいただけることを心願いまた心から答えると、またご期待を申し上げるものでございます。

少し、こどもであったり家庭であったり、また全体の世界であったりっていうことを私、首長今お預かりさせていただいて7年目となりますけれども少しだけちょっと触れさせていただきたい事柄がいくつかございます。ちょっとお時間お許しいただいて、大変恐縮に存じます。

今日の朝もうニュースでもございましたけれども、広島、長崎という原爆投下が8月の6日であり、また9日であり、そして日航機の事故がありましたが、もう40年前ということでもございますけれども8月の12日ということでもございました。

当然のように明日もやってくるであろうというふうに思っていた命ということが突然に叶うことがないということが、社会にはあるのやもしれません。

そういうことでは、授かった命ということがお子様はもちろんでございますし、大人社会を構成する1人1人の命ということが伺えることが大変大切であるというように、本当に思うものでございます。

この1日1日を大事に生きていきたいという思いは本当に持つものでございます。

お子様を中心とした社会作りということをしていきたいというふうにも思いますけれども一方、この社会っていうことは、競争であったりなかなか思いが全て叶うわけでもない中においても自らの立場ということをして社会に確保していくっていう強さもやっぱり必要であるというふうにも私は思うものでございます。

近年、多様性という言葉が社会でも大変大事な言葉としてございました。

これは私が少しすごく感じていたのが、その痛みを感じていらっしゃる方の痛みをしっかりと感じ取る感性であったり、っていう文脈で使われることがこの多様性またそれぞれの価値を尊重しようということであったかなというふうにも思っております。そういうことを私、実は感じながら思ったんですけれども今からひと月ちょっとほども前でもございますけれども、アメリカと日本の中においてトランプ大統領というご存在おられますけれども、日本製鉄のこのUSスチールの買収ということが認められるに至りました。このときに思ったのが、やっぱりアメリカとしてはそれ譲れない価値で

ある。ただ日本としては、どうしてもこの事業を前進させたいという思いでされた中において、日本の1事業会社がアメリカ大統領と労働組合ということ提訴されて、そこから一年半をかけて、アメリカ大統領がわかったって言葉を引き出すことができた。

これまさにその多様性という、それぞれの価値がある中においても、自らの思い、覚悟を絶対に成就させるんだという強さを持つということ改めて日本製鉄には経営のトップである橋本英二会長という方の揺るがない信念の中で、この一年半ある大変な中をこの来週ということにたどり着かれたんだなと思いますと、多様性という言葉でもいろいろ感じはあると思いますけれどもこの社会の中の一つ、私達もそういうことを心に留めながら、社会を見るということも大変大事な価値ではなかろうかと改めて実は感じているものでございます。

現下、様々にお子様家庭社会取り巻くことはございますが、やっぱり命の大切さと、尊さということを根底に置くならば、そこにたどり着くいろんな政策であったりということはあると思います。

その部分を皆々様の日常の生活の中でお感じいただいていること、また目指すべき未来へということを織り交ぜたものとして、様々な計画が上においても実施にたどり着けるようにどうかお力を賜りたいというふうに切に思うものでございます。

少しちょっと冒頭にお時間をいただきましたことを大変恐縮に存じておりますけれども、本当に大事な会議があるというように思っておりますので何とぞよろしくお願いを申し上げます。

ありがとうございます。

<増居課長>

はい、ありがとうございました。

続きまして、委嘱状の交付の方をさせていただきたいと思っております。皆様を代表いたしまして、烏野猛様に交付をさせていただきたいと思っております。

烏野様、前の方をお願いいたします。

【町長より委嘱状 交付】

<増居課長>

はい、ありがとうございました。

他の皆様におかれましては、お席の上に委嘱状の方を置かせていただいておりますのでご確認いただきますようお願いいたします。

任期につきましては、保護者代表の方は令和8年の3月31日まで、それ以外の方は令和9年3月31日までとなっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

有村町長の方は他の公務の関係上ここで退席をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは次に資料の確認をさせていただきます。事務局の森野の方からさせていただきます。

【事務局より資料の確認】

<増居課長>

それでは続きまして今年度初めての会議になりますので、お席の順番に自己紹介の方をお願いいたしたいと思います。

自己紹介に入ります前にマイク的使用方法についてご説明させていただきます。お手元の前のマイクですが、ご発言いただく前に前についてますトークというボタンについて一度押していただきますと、赤いランプがつかますので、赤いランプがつかましたらご発言をお願いいたしたいと思います。

それでは烏野委員から順にお席の順でお願いいたします。

【座席の順番で自己紹介】

<増居課長>

皆さんありがとうございました。

続いて本日欠席の報告を賜っておりますのは社会福祉協議会の中西委員です。

連絡はないのですが、幼稚園の保護者代表の加藤委員、そして保育園の保護者代表の田邊委員につきましてもちょっとご欠席かなと思います。先ほど中村参事の方も言っていただきましたが西澤委員につきましては代理で中村参事にご出席いただいております。

14名の委員中11名の出席となりまして、委員の半数以上のご出席をいただいております。

この後に本会議の条例や役割の方もご説明をさせていただきますけれども、町子ども・子育て会議条例の第5条第2項の規定に基づき、本会議が成立することをご報告させていただきます。

続きまして次第の3番目の会長および副会長の選出でございます。

後ほど子ども・子育て会議条例について説明させていただきますが、第4条に、委員の互選により会長および副会長を各1名置くというふうになっております。

どのように選出させていただいたらよろしいかお諮りいたします。

【事務局一任の声】

<増居課長>

はい。ありがとうございます。事務局一任とのお声をいただきましたがそのように進めさせていただいてもよろしいでしょうか？

【異議なし】

<増居課長>

はい。ありがとうございます。

それではちょっと事務局としての考えの方を述べさせていただきたいと思います。学識研究者で子ども・子育て会議の立ち上げ当初から携わっていただいております子ども・子育て制度と愛荘町の保育園、幼稚園の状況の方もご存知いただいております烏野猛委員に会長の方をお願いいたしたいと考えております。また副会長の方には、町の保育協議会の代表ということで参画いただいております愛知川保育園の園長の豊満委員をお願いいたしたいと考えております。

事務局案にご賛同いただける方は拍手をお願いいたしたいと思います。

【拍手多数】

<増居課長>

はい。ありがとうございます。

それでは会長に烏野委員、副会長に豊満委員が選出をされました。烏野委員、豊満委員は前の方の会長副会長席にお移りください。

【会長・副会長 移動】

<増居課長>

はい。ありがとうございます。それでは会長にご就任いただきました烏野会長の方から一言ご挨拶をいただきたいと存じます。

<烏野会長>

はい。ありがとうございます。

先ほどもちょっとお話ししましたように、また新たなこのメンバーで2年間っていうことですので、いろいろよろしく願いしたいなというふうに思ってます。住んでいるのが岐阜の各務原の方からなので、往復毎日4時間かけて高速で26年間やってます。

ですから、遠いなというところはありますけれども、逆に言うと、この愛荘町のつくし保育園さんができる前から、関わっててこどもがものすごく増えた時期ってというのが滋賀県の中で愛荘町だけやって、特殊なエリアといえばエリアではあるんですよ。そこまで活気があったっていうのは、ただ過去形じゃないんですが、だんだんそのこどもも大きくなるわけですよ。今度は幼稚園、保育園それから、小学校になって中学校なってる。やっぱり10年ちょっとの間にこどももガラッとまた変わってくるわけですよ。ですからそういう部分も含めて、当初計画書を作らせていただいたんですが、もう何回も今回見直しも含めて、新たな見直しで今年度初めての会議ということですから、また皆さん委員の皆さんのも忌憚ないご意見、受けて、今度また計画をつくらなあかんわけですね。

そこで、そのときにこどもの数がどうなってる。状況がどうなる。出ると町長の方から格式の高いお話がありましたから、私の方はもう何も言うことないというところはあるんですけど、この2年でまたガラッと変わりますよ、それはとなってくると、こどもを巡る状況だけじゃなくて大人巡る状況、経済状況戦争待ってるかもしれないみたいなことも、この2年でかなり変わるやろなって思いますから、本当に皆さんのお知恵をいただかないと、やっぱり方針って作れないところがありますので、本当によろしく願いしたいと思ってます。

ちょっと座らせていただいて、ありがとうございます。

<増居課長>

ありがとうございました。

どうぞよろしくお願いいたします。

協議の方に入ります前に、愛荘町附属機関等の会議の公開等に関する要綱に基づき、政策形成過程の透明性の向上と公正の確保を図るため、本会議も公開することになっております。

つきましては会議録署名人を委員の中からお願いすることになり烏野会長と大辻委員をお願いしたいと思います。会議録ができましたらまた後日送付させていただきますので、お願いいたします。

次に次第の4の協議事項に移らせていただきます。

規定によりましてこれより先の協議運営につきましては烏野会長をお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

<烏野会長>

はい。それじゃ座らせていただいて進めていこうと思うんですが委員の皆さん方の方にちょっと分厚い資料というか事務局の方から事前にあったんじゃないかなっていうふうに思いますし、目もお忙しい中通していただいているんじゃないかなと思うんですが、今回限られた時間ではあるんですが協議事項としては四つございます。

一つは、この愛荘町の子ども・子育て会議の役割と、ということですね。二つ目が、この第2期の子ども・子育て支援事業計画の評価についてそしてまた三つ目に、こども計画について四つ目一番最後なんです、愛荘町の児童の状況についてというところの大きくはこの四つ、今日皆さん方の方に報告をさせてもらおうというふうな思っています。

まず一つ目の愛荘町の子ども・子育て会議の役割についてというところなんです事務局の方から説明よろしく申し上げます。

はい失礼します。

<森野補佐>

【資料1と資料2に基づき説明】

<烏野会長>

ありがとうございます。

まずこの子ども・子育て会議この本会の役割についてっていうところは、皆さんあんまりご質問というか意見はないんじゃないかなっていうふうな思うんですよ。目的なり役割についてっていうことですからその中でも資料1、2をご覧になっていただい

て、何か皆さん気づかれた点とか、何かご質問等があればお受けしたいなというふう
に思っています。

逆に次の二つ目また三つ目、何かとの兼ね合いでまた一つ目の議題について質問とい
うことがあろうかもしれませんから。よろしいですかね。まず1個目は、お言葉に甘え
ということですが、二つ目の第2期の子ども・子育て支援事業計画の評価についてと
いうことで、こちらがねちょっと大事今日の一番メインというか、大事なところかな
っていうふうに思うので事務局の方からよろしくお願いします。

<森野補佐>

【資料3、第2期の子ども・子育て支援事業計画に基づき説明】

<烏野会長>

はい。どうも事務局ありがとうございました。

かなりボリュームがある資料なので、皆さん1回、目を通していただいても、ちょっと
わかりにくいなと説明を聞いてもメリハリつけてちょっと説明していただきました
が、なかなかわかりにくいなというところがあるかもしれません。

ただ、皆さんの方のお手持ちにあるようなこども計画の方ですねこっちの方、こっち
なんかをずっと読んでいただく中で、今見た資料なんかがこういうふうに反映されて
るなというふうに思っていたとしても、いんじゃないかなというふうに思います
から、資料3なんかを見ながら、この冊子になったこども計画を見てというふうに思っ
ていただければいいと思います。

今後、例えば低所得者であったりとか、ちょっと発達がしんどいなというこどもの
対応とか、そしてあとひとり親家庭であったりとか、いろんな細かい分野のことに関
してもこの資料3の方には載ってますから。ですから、また次回以降の会議等でもそう
いうふうなお話があってもいいんじゃないかなというふうに思いますね。

今までのところで、委員の皆さんの方から何か質問だとかこれだけをちょっと聞いて
おきたいなというのってございますか。

次の議題がこども計画についてということなので、ここともかなりかぶるんです
よ。そこはですから今もしなかったとしても、こども計画のところでもた再度ご質問
いただいても結構なんです、いかがですか委員の皆さん方大丈夫です。

先に3番目のこども計画について行ってみましょうか？また事務局の方からちょっと立
て続けになりますけどよろしくお願いします。

<森野補佐>

【こども計画、資料4に基づき説明】

<烏野会長>

ありがとうございます。

いかがですか。委員の皆さん方、今回のメインがこのこども計画の冊子になってるんでダイジェスト版もありますから、ダイジェスト版なんかもご覧になりながら、ちょっとご意見なりご質問等あればお受けしたいなと思うんですがいかがですかね。

どうですか。

<辻野委員>

そうですね、資料を説明していただいて、こどもに対する支援っていうところの充実をもっと図っていくことが書かれている内容なんだなっていうのは感じましたし、学童を運営している者としてはもうちょっとこどもであったりだとか、就労されている保護者の方に支援できるような形でもうちょっと取り組みを考えていかないといけないなというふうに感じました。

<烏野会長>

ありがとうございます。

山口さんお聞きしていいですか。初めてっていうこともありますし、おそらく保護者の方からしたら、僕ね立場変えたら、基本的に私これ全部見てきてますから、感無量なんすよ。それは質問も何も無い。だってここまで作るのにどれだけみんな苦勞してきたっていうところが本音のところであったりするんですけど、保護者のお立場からしたらね、小中高のお子さんがガーンとアンケート用紙が届いて、なんやこれいっぱい書かなあかんって面倒くさって思ったん違うかなと思うんです。それを全部集約したのがこれなんですよとなってくると、こうやってアンケートが活かされて、ただこれは課題として残ってるんやなとかっていうふうに、今回こういうふうに委員のメンバーになってもらいましたから、その計画を作るアンケートが皆さんの方でやってもらって、それを集約して、結果、結果が出たのが別れて、また2年後、皆さんのこの任期の間に次の計画をつくらなあかんというところも考えていただくっていうパターンなんですよ。

どうですか。

<山口委員>

確かにアンケート書いたか書いていないかろう覚えなんですが、すごいこの資料を作るのもめちゃくちゃ時間かかるんやろうなと、見せてもらっていて。資料3で「よくできた」と「ある程度できた」とか「継続」、具体的なことが書いてあるんですが、重点施策を説明していただいた中で思ったことが、「妊娠期から子育て期の健康づくりの充実」のところ、ケアプランの作成数51件とあるんですが、保護者が妊娠されるときにこんなプランがあったのかなとふと思いました。

<増居課長>

はい。失礼します。

ちょっと今退席してる健康推進課長福祉政策監の方がちょっとそちらの方の分野なんですけれども、全ての妊婦さんに対してのケアプランを作っているわけではなくて、ちょっとリスクの高いおうちであるとか、そういうようなところでちょっとどういう支援を入れていくっていうようなところで全ての母子手帳交付をさせてもらった人数イコールのケアプランという形ではなくて、ちょっと支援が必要だっていうおうちであるとか、ちょっとハイリスクの妊婦さんだっていうようなところを重点的にこういう支援を保健師なり助産師なりが入っていきこうというように立てているプランというふうにお聞きしているので、そこら辺については、また今度はこども家庭センターでもやっていくというようにするにはなるんですけれども、全てのおうちでプランが立っているというわけではなかったかなと思います。

<山口委員>

よろしかったですか。

学校からいろいろ聞いて、家で見たりもしているんですが、多すぎて。せっかく新しい施設が建ってるのに、今聞いてそうやったんやと。そこらへんの情報自体がうまいこと出来たらいいのかと思いました。

<烏野会長>

今回皆さんの方でも、このこども計画、これが完成体じゃなくて課題点もたくさんあるんですよ。課題に対してはまた次の委員で持ち越しやでみたいなのがこないだやったんです。ですから次の委員ということに我々なんですよ。だからこの課題もまた作りながら、また新しい課題も出てくると思うので、よろしいですか、この三つ目のところの皆さんこども計画のところ。また質問等っていうのは今日の資料の中にもFAXも

含めて、質問用紙っていうのがありますので、ですからこういうのをおおむね1週間程度にお返しただければという形でもフォローさせていただこうと思っております。

そうしますと、時間の関係もありますので、4点目の現在の愛荘町のこども、児童の現状についてというところをちょっとご説明していただいでよろしいですか。

<森野補佐>

【資料5に基づき説明】

<烏野会長>

はい。ありがとうございます。

協議、議題的には全て終了ということなんですがこれも踏まえて、現在の愛荘町の児童の状況というので、最後今日を締めくくりましたけれども、皆さんの方で何かご質問等あればお聞きしたいなというふうに思うんですがいかがですか。

<大辻委員>

失礼します。もうなんか頭がパンパンで、何から話したらいいのかがわからないというか、説明してもらっても付いていけないところもあるんですけども、私が関わっているこどもたちのお話ですけども、今、夏休み、地域でこどもサロンっていうのを週1回ずつしてるんですけど、宿題持ってきてみんなで一緒にやったり、みんなで遊んだり、何か作って食べたりっていうのを週1回ずつしてますが、私、栗田なんですけど、栗田の小学生がね5人なんです。5人しかいない。でも、中学生が来てくれたり、この前は高校生が来てくれたり、そしてなんか友達を呼んで来るから、なんか15人とかになるんですけど、そんな中で外国籍のこどもが何人かいて、なかなか来ないからうちの人に連絡して、やっと来たけども、すごい浮かない顔というか、なんかもう元気のない顔で来たら、朝ご飯食べてへんって言って、その日はおにぎりを作ってお昼食べたので、おにぎり作る頃には、もうニコニコになって何かいっぱい作っておかわりもして食べたんですけど、その前にちょっと私ボランティアで、家庭科のお裁縫の授業のお手伝いに行ったら、その子もブラジル籍の子やったんですけど裁縫道具が持ってきてなくて、私の近所の子やったので、ブラジル籍の子で、単に忘れてきあったんやと思ってたら、話を聞いたら、無いと、裁縫道具が家に一つはあったんやけどもお兄ちゃんが中学校の方に持って行ってやるから、裁縫道具がないから持ってきたらへんかったっていう話をしてたりしたんですね。なんかもうちょっとそういうところに手を差し伸べなあかんのかなっていう気持ちで、その裁縫道具がなかった子

は朝ご飯食べてきてなかったんですよ。こどもサロンのときにね。本当に、近所に住んでても、家庭の中のことはわかりにくいんですけど、朝ご飯食べんと過ごしているとか、夏休みで両親は働きに行っはるんですよ。その中で学童も行かず、家で何かじっとして、もう外に出ずにじっとしてるとかいう実態もあるし、その中でこどもたちが困っていることに、なかなか気づけないと思うんです。たまたまこどもサロンしてたから、そういうことがわかったり、家庭科のお手伝いに行ったから、ちょっとそういうことがわかったりするんやけども、何かSOSがね、こどもたちの子育てをしている人のSOSが聞こえるような。あれは、行政はすごい細やかに、これ見たら事業計画やら事業の評価見たりしたら、すごいきめ細やかにしてくれはるんやけども、実際の本当にこどもたちの生活は、本当にわからないことがたくさんあったりして、それを支えていくのって、地域の人なんとちゃうのかなとかって思って、ちょっと本当に地域やったら見える、行政には見えないことも地域の人にはちょっと見えたりもすることもあるし、なんかそういう困ってるんとかSOS出したいんやけどっていうことが、わかるような地域作りっていうのもすごく大事ななと思います。

ちょっと生涯学習課の方にもちょっと関わったりもしてるんですけど、そういう本当に地域と地域ぐるみで、みんなで何かこどもたちを見ていくのは大事ななと思います。私、子育て支援センターの運営委員協議会の方から来てるんですけども、子育て支援センターの会議に出てても本当にそれぞれの立場ですごい頑張っやってくれはるので本当に横の繋がりにっていうのは、すごく大事ななって。地域の人が行政にこういうことで困ってるみたいやでっていうのを言うとか、どっかの機関にちょっと繋がってあげるとか、そういうことってすごく大事なので、地域の人のかっていうのも大事ななと思いますので、横の繋がりにっていうのはすごく大事ななって、各課の繋がりに大事ですけども、地域住民と行政の繋がりでSOSに気付いたりすることもたくさんあるのかなと思って、ちょっと一言言いたいなと思いました。

そして民生委員としては、この資料3の事業計画のあれですごく感じるのが、こんにちは赤ちゃん訪問ってというのがね、むちゃくちゃ増えたんです。ていうのは、去年度からかな。訪問するときに、紙オムツをもらえるもらえるというか持っていくんですね。そういうことを考えてしてくれはったら、それまではもう閑古鳥が鳴いていたこんにちは赤ちゃん訪問が1年に1件か2件ぐらいしかなかったのが、各校区で10何件とかいって増えてきました。

やっぱりそういう1回赤ちゃんのときに訪問するっていうことで、そうやって繋がりができたり、次また子育て支援センターの事業で、私らが行かしてもらったときに、この前は邪魔してありがとうとか、こういう繋がりができていく。赤ちゃん訪問行け

るっていうことはね、すごくプラスになるのかなと思うんですね。やっぱりそういう考えてお金の使い方を、オムツをあげようというような使い方を考えてくれはったことが、すごく功を奏しているっていうか。それをまた活かして、ほんまに子育てしやすいとか困ったときに頼れるとか、という体制が作っていけるのかなと思うので、すごく大事にしたいなと思いました。本当にそういうのをしていくのには、オムツ買うお金とかいるんやなと思いました。そういうお金の使い方とかも本当に考えてやってもらったら、本当にいっぱい繋げていけるのかなと思っています。

失礼します。

<烏野会長>

ありがとうございます。

他は皆さんの方でいかがですかね。よろしいですか。いかがですかね。

何回も言うようですが子ども計画これがベースになってって、5年に1回作るわけですよ。ほんでやっと作り終えたというところがあって、5年に1回作るんですけど子ども計画なので、今度作るのは5年後となってくると、今から5年間のことも予想しながらこれ作ってるんです。ある意味では、だから5年後どうなるかわからへんやんって思いながらも、作ってきたっていうところがあって、ですから先ほど委員の方からも外国籍のこどもって、今の政治と、この間の選挙等なんかを見ても、外国人の働き方が起こるこれからどないなるかっていうのは、まだちょっと全然先わからないところでもあり、そしておそらく5年後こういう問題が出てくるかなと思って計画を作ってはるんですけど、またきつとガラッと変わるかも知れない。そこって言うところも含めながら、そしてこの資料5の方で、愛荘町の児童の状況、令和7年度までですけど、今からの将来予測はって今出てないんですけど、将来予測はずっとこども減っていくんですよ。そこは、そうなったときに、どうすんのっていうのが出てくるわけですよ。他の市町村の方は、もうこどもなんか生まれてないので。老人どないすんねんこれという話ばかりになってるところがあるんですけど、うちのところはまだ恵まれてはいるんですけど、いずれそういうふうなときがきます。そりゃこどもがすごく待機も多かったので、幼稚園、保育園ちょっと作ってきたいうところもあります。長い目で考えると、いずれ余ってしまうんじゃないのっていうふうに作った段階からはもう思ってたわけですよ。でも作る必要だったっていうパターンなんかも考えると、またこの何年かの間にも大きく動くと思いますんで、動きながらも、町ベースにしながら皆さんのような意見を加えながら特に子育てに扱ってる方、今回のこの資料のところでのこの計画もそうなんですけど、法律も変わって国のだから、義務教育の

だけかっていうんじゃないくて、こども・若者支援なんですよ。となってくると若者って30代の子もそうなんです。そこまで世話せなあかんのっていうところまで全部組み込まれてたり、また来年度ってなってくると、2026年度ですよ。こども誰でも通園制度というのが出てくる。だから今度お母さんが働いてるという要件じゃなくて、誰でも預けられんねんって、国の方は子育て大変でしたらうってこどもってストレスかかりますよねっていう、もうマイナスしか見てないわけですよ。それで、保育園に預けられて、子供同士ぶつけてたんこぶできて、保護者は烈火のごとく怒ってくるわけですよ。保育士に対して。保育士やめる。その繰り返しなってくると、誰が責任を負うのこれっていう責任の所在までちょっとだけ入れたような形なんです。

ですから一番報告でもあるんですけど「ふれ愛ささえ愛育ち愛 こどもが親が地域が輝く」ってあったんですけど、この前までは地域が育つやったんですよ。

5年前、でももう育ったよね。いう話になって、輝くに昇華。これでかなりの時間論議したんです。もう輝くでも育ててもどっちもええやんっていうふうに思いながらも、結構時間作ったんですよ、これ。そうすると、今から5年後どうやって持っていくのは、みんなで真剣に考えた成果のところはあるんですけど、読み切れへんこと満載ですわ、それは。いうふうになってきたときにやっぱりちょこちょこちょこ修正しながら、5年後に変えようねっていうんじゃないくて、もうある意味、町のところでできることは、単年度もって変えていかんところは変えていかんと、間に合わへんよねって出てきたねいう頃には、もうこどもが学童期じゃないみたいな話になってしまいますから、早めに早めについていうことをせなあかんなんていうのも課題では一方ではあります、そこは。だからそういうことも含めて、また委員の皆さんの方からのご意見もそうですけど、あとご自宅にお帰りになって、もう1回見てみたらちょっとここってどうなってんのかなとかかって、数字のところとかね、整合性とかって言うのはFAX等でもご意見いただきたいというふうに思ってますので、よろしいですかね、皆さん。今日1から4までの議題に関してはよろしいですか。大丈夫ですか。

そうしますと、今日いただいた議題のところはこれで全て終了ということなので、次回の予定、今度は寒い中、集まらなあかんのですよ。今日は暑い中でしたけど。

となってくると、今からの進め方に関しては事務局の方におまかせしたいと思いますのでよろしくお願いします。

<増居課長>

はい、烏野会長ありがとうございました。皆さんも本当に長時間にわたりましてありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして豊満副会長様からご挨拶の方頂戴したいと思います。

<豊満副会長>

図らずもこのような重責になりまして驚いてるようなことでございます。もう私自身はどこ行っても枯れ木も山の賑わい人間というふうに思っておったわけでございますけれども、このような重責を背負うことになりまして、これから2年間死なないように頑張ろうと思っておるわけです。

本当に少し長いスパンで考えますと、同居家族が無くなったということをつくづく思うわけでございます。私達の時代は同居が当たり前でございました。それが別居になりまして、おじいさんおばあさんが1人、2人で暮らしておって、息子さんらはあっちゃこっちゃ行ってしまって、そして、やがて、おじいさんが亡くなられて、おばあさん1人暮らしになって一人暮らしできないようになって、どっかの施設が入れる。そしてそのうち家が空き家になり、死期が来ると、そこが更地になっておる。そういうことはもう目の当たりに見ておるわけでございます。

こども、愛荘町は、まだ微減でございますけれども、日本全体で言いますと、大変、こどもの数は減ってくるというわけでございます。

経済学者の中には減ることなんて大丈夫ですよと、ロボットが働けるからって、あるいは減ることなんて大丈夫ですよ。外国人を移民させたらいいというふうに言われる方もあるわけですがけれども、地域にいますと人口が減る、こどもが減るということはその地域の文化が廃れていくということであり、文化的な文化が廃れていくということは、それこそ日本の国力の一番大事な精神性みたいなものが失われていくということになります。

今後の愛荘町のこどもや子育て事業の推進にあたりましては、皆様のお力添えが必要となってきますので、ご協力よろしく願いいたします。

<増居課長>

ありがとうございました。

次回の開催日ですが、2月頃を予定しています。会長と日程調整させていただき、ご案内を送らせていただきますので、次回もどうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

(11時35分 閉会)

以上のとおり会議の顛末を記載し、相違ないことを証すためここに署名します。

令和7年 月 日

議事録署名人（会長） _____ ㊟

議事録署名人（委員） _____ ㊟